

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 10 日

評価対象事業		評価者	生活福祉課長	矢部 哲也
健福-07	実施事業	社会福祉運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 生活福祉課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課 福祉総務課
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	地域生活の支援サービス

1 事業の目的

2 平成29年度に実施した事業の概要

対象	市民等	・ポスターコンテストや講演会など、社会を明るくする運動事業を保護司会とともに行った。 ・更生保護の仕事に従事している保護司会に対し、補助金を交付した。
意図	社会福祉事業の円滑な執行を支援するため。	
効果	社会福祉の増進に寄与する。	

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,869人	176,466人		人口	176,308人	
	世帯数	80,928世帯	81,150世帯	世帯数	81,763世帯			
	事業の対象者数			事業の対象者数				
運営資源状況	決算値(千円)	489	522	当初予算(千円)	560			
	国県支出金	0	0	国県支出金	0			
	地方債	0	0	地方債	0			
	その他	0	48	その他	225			
	一般財源	489	474	一般財源	335			
	人員配置数	0.5	0.5	人員配置数	0.5			
事業経費運営	人件費(千円)	3,878	3,869	人件費(千円)	3,946			
	総事業費(千円)	4,367	4,391	総事業費(千円)	4,506			
	市民1人当りの経費(円)	25	25	市民1人当りの経費(円)	26			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-1. 負担未導入 △-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している 協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市保護司会（社会を明るくする運動事業）

事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直し 種類の	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	見直し 内容の	緊急援護貸付事業の拡大 フードバンク事業者への補助制度の新設
	<input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				事業へ統合

予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	緊急援護貸付事業の事業費を増額 新規のフードバンク事業者への補助制度の新設のための経費を増額
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	緊急援護貸付事業については、平成29年度の利用実績が増加しており、事業の拡大が望ましい。フードバンクの利用者の増加やそれを実施する民間団体の増加に伴い、フードバンク事業者への補助制度の新設が求められている。
-------------------	---

平成29年度事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	フードバンク活動を行う団体への支援方法が未確立である。	
課題解決のために行った平成29年度の取組	フードバンク活動を行う団体に対し、食材の一時保管場所として市関連施設の一部を提供することとした。また、フードバンク活動を行う団体への補助制度新設のためのH30年度予算措置を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	フードバンク事業者への支援方法の更なる拡充	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	保護司の現員数/定数							
団体名	鎌倉市	逗子・葉山	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市			
他市実績	20人	19人	66人	38人	68人			
	25人	20人	68人	41人	74人			

比較事項	フードバンク活動への補助予算額(H30)							
団体名	鎌倉市	伊勢原市	大和市	その他県内市町村				
他市実績	514,720円	300,000円	36,000円	なし				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	フードバンク活動に対する補助を行う団体等の件数					単位	件	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
活動を行う団体が増えることで、需要に対応できるため	目標値	-	-	-	-	1.0	2.0			
	実績値	-	-	-	-					
	達成率	-	-	-	-					

指標の内容	保護観察対象者への面談場所(市関連施設)の数					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
更正保護活動を円滑に行うため	目標値	-	-	-	-	6.0	6.0			
	実績値	-	-	-	-					
	達成率	-	-	-	-					

指標の内容	保護観察対象者の市雇用人数					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
保護観察対象者の自立を支援することが本事業の目的であるため	目標値	-	-	-	-	0.0	1.0			
	実績値	-	-	-	-					
	達成率	-	-	-	-					

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	生活困窮者への緊急的な食料が確実に届けられるよう、また増加傾向にある需要に対応できるよう、受け渡し方法や保管場所、受益者の負担金等も考慮した上で、本市で行われるフードバンク活動に対し支援を行っていく。
-----------------------	--